

富山県感染症発生動向速報

(2025 年第 50 週分・12 月 8 日～12 月 14 日)

■今週の主な動向

○インフルエンザの報告数は、依然として多い状況です。

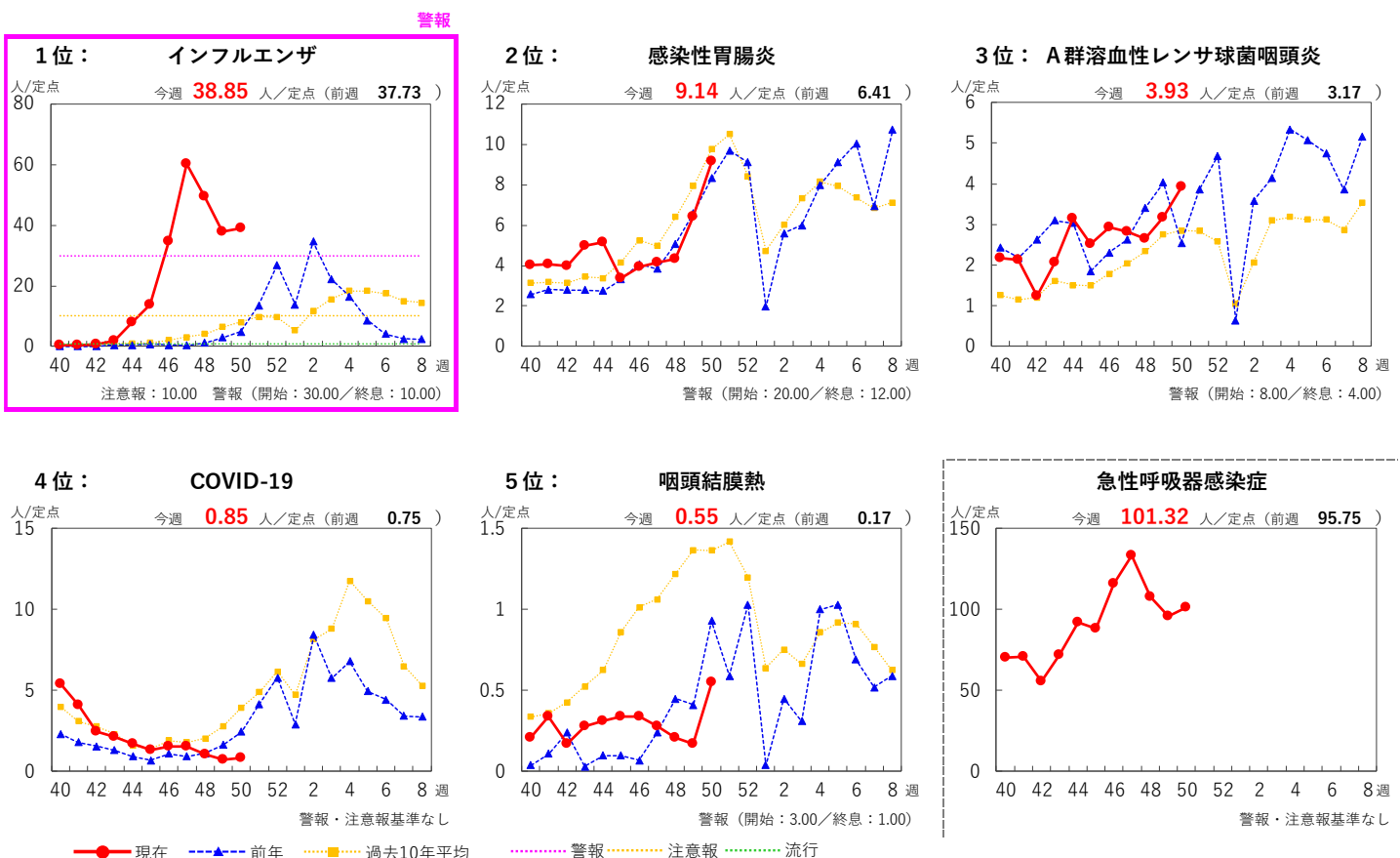
県内の患者報告数は、第 47 週をピークに 2 週連続で減少していましたが、今週 38.85 人/定点となり、先週 (37.73) からやや増加しました。引き続き、感染予防及び感染拡大防止のため、手洗いや咳エチケット、換気などの基本的な感染対策を心がけましょう。(インフルエンザの疫学所見、第 48 週インフォメーション参照)

○感染性胃腸炎の報告数が増えています。

小児科定点からの患者報告数は今週 9.14 人/定点となり、先週 (6.41) から増加しました。例年冬季に増加する傾向があります。ウイルスや細菌などが主に食品や手指を介して口から入ることによって感染するため、トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗って予防しましょう。(第 46 週インフォメーション参照)

■定点報告の感染症

今週の富山県内上位 5 疾患 + 急性呼吸器感染症 (第 50 週・12/8～12/14)

厚生センター (保健所) 管内別、直近の推移: <https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/#b1>

■全数報告の感染症

四類感染症 レジオネラ症 1 件 (60 歳代、男性、肺炎型)

五類感染症 百日咳 1 件 (10 歳未満、男性)





人食いバクテリア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

《 インフォメーション 》

●劇症型溶血性レンサ球菌感染症

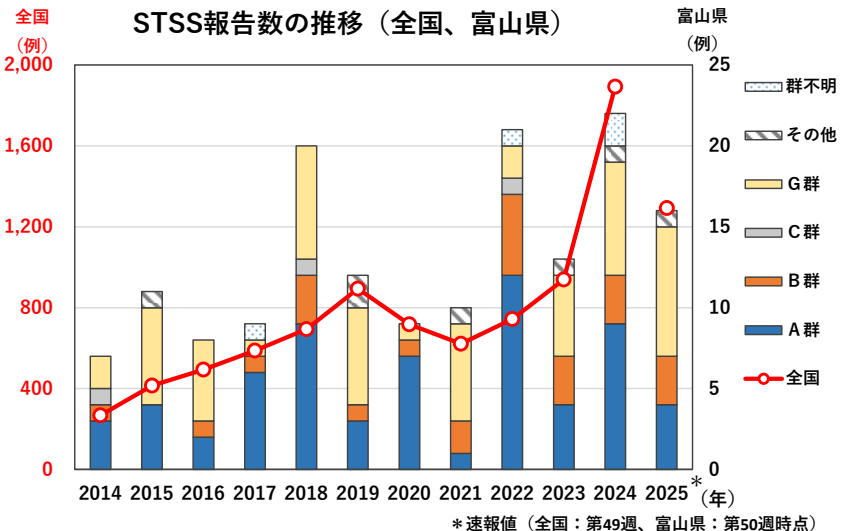
劇症型溶血性レンサ球菌感染症（Streptococcal toxic shock syndrome; STSS）はA群、B群、C/G群のβ溶血性レンサ球菌（以下、溶レン菌）を原因菌とする、生命を脅かす疾患です。STSSの全国の実患者報告数は、2019年（894例）まで増加傾向でしたが、2020年の新型コロナウイルス感染症の発生後、やや減少しました（図：折れ線グラフ）。2022年以降再び増加に転じ、2024年には過去最

多となる1,893例が報告されました。その理由については、2017年以降に海外から国内に侵入した病原性の高いA群溶レン菌のM1_{UK}系統株が関与した可能性が示唆されています（<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/45/528/article/010/>）。2025年は第49週時点で1,293例が報告されており、昨年の第49週時点（1,812例）より減少したものの、2023年以前と比較して報告数が多い状況となっています。

富山県内の患者報告数は、近年7～22例/年で推移し、2025年は第50週時点で16例が報告されました。また、2025年に患者から分離された原因菌は、A群が4例、G群が8例でした（図：棒グラフ）。2024年と比較すると、A群の報告数が減少しました。

STSSは、通常無菌的な部位（血液など）に溶レン菌が侵入することで引き起こされます。感染経路は飛沫感染、接触感染、創傷感染です。感染予防としては、手指衛生、咳エチケット、傷口の清潔な処置が重要です。

STSSは30歳以上の成人に多く、小児のA群溶レン菌咽頭炎とは重症度が異なります。発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、壊死性筋膜炎、急性腎不全、多臓器不全等を引き起こします。このような特徴から「人食いバクテリア」とも呼ばれています。厚生労働省研究班によると、患者の死亡割合は48～59%と極めて予後不良のため、発症初期の適切な治療提供が肝要です（[Tsuchihashi Y, et al. Int J Infect Dis. 2025.](https://doi.org/10.1093/infdis/jiaa100)）。治療は、輸液などの支持療法・全身管理、ペニシリンとクリンダマイシンの併用投与等が行われます。壊死性筋膜炎の場合は病巣の外科的切除も選択肢となります。初期症状である発熱や悪寒、四肢の疼痛や腫脹、創部の発赤などが見られた場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。



○感染症発生動向調査報告状況（2025年第50週 2025年12月8日～2025年12月14日）

分類		疾患	今週報告分（第50週）					累積報告数（2025年第1週（2024年12月30日）～）							
			新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	
全数把握	二類感染症	結核							6	2	19	13	48	88	
		（再掲）結核：無症状病原体保有者を除く							5	1	12	7	30	55	
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症							2	1	7	3	4	17	
	四類感染症	E型肝炎									5		2	7	
		A型肝炎									1	1		1	3
		重症熱性血小板減少症候群（SFTS）										1			1
		デング熱										1			1
		レジオネラ症			1				1	1	1	7	3	18	30
	五類感染症	アメーバ赤痢										1		2	3
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症										4		5	9
		急性脳炎										1	1	1	3
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症							1		4			11	16
		後天性免疫不全症候群（H I V感染症を含む）									1			1	2
		ジアルジア症											1		1
		侵襲性インフルエンザ菌感染症							2			1	3	4	10
		侵襲性肺炎球菌感染症							5			8	4	23	40
		水痘（入院例）							1			1			2
		梅毒							5	2		9	4	32	52
	百日咳						1	1	29	143	148	45	280	645	
	風しん											1		1	
急性呼吸器感染症（ARI）定点（47定点）	急性呼吸器感染症（※1）	407	491	1,446	528	1,890	4,762	11,775	10,758	39,921	10,238	50,179	122,871		
		58.14	98.20	111.23	75.43	126.00	101.32								
	インフルエンザ	193	247	388	238	760	1,826	2,134	1,811	4,816	2,185	7,270	18,216		
		27.57	49.40	29.85	34.00	50.67	38.85								
定点把握（上段：報告数、下段：定点医療機関当たりの報告数）	小児科定点（29定点）	COVID-19	10	3	7	11	9	40	1,720	714	1,932	1,527	1,826	7,719	
			1.43	0.60	0.54	1.57	0.60	0.85							
		R Sウイルス感染症	1		9		1	11	76	74	376	58	411	995	
			0.25		1.13		0.10	0.38							
	小児科定点（29定点）	咽頭結膜熱	1	1	8		6	16	85	45	338	7	124	599	
			0.25	0.33	1.00		0.60	0.55							
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5	3	67	2	37	114	183	301	1,861	236	2,425	5,006	
			1.25	1.00	8.38	0.50	3.70	3.93							
		感染性胃腸炎	29	31	23	20	162	265	1,354	827	1,594	595	5,295	9,665	
			7.25	10.33	2.88	5.00	16.20	9.14							
		水痘			7		7	14	11	97	94	26	329	557	
					0.88		0.70	0.48							
		手足口病							4	8	60	17	70	159	
		伝染性紅斑	1	1	3	1	2	8	152	332	792	165	1,255	2,696	
			0.25	0.33	0.38	0.25	0.20	0.28							
	突発性発しん			2	2	1	5	15	32	139	37	162	385		
				0.25	0.50	0.10	0.17								
	小児科定点（29定点）	ヘルパンギーナ							31	56	290	62	226	665	
流行性耳下腺炎						1	1	4	12	9	10	32	67		
						0.10	0.03								
眼科定点（7定点）	急性出血性結膜炎									5	95		100		
眼科定点（7定点）	流行性角結膜炎							12	19	32	26	3	92		
基幹定点（5定点）	細菌性髄膜炎											1	1	2	
	無菌性髄膜炎											1	1	2	
	マイコプラズマ肺炎		1		1		2	28	10	44	39	18	139		
基幹定点（5定点）			1.00		1.00		0.40								
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）									5				5	
入院サーベイランス（5定点）	インフルエンザによる入院患者（※2）	12	7	4	3	7	33	24	9	30	20	52	135		
	COVID-19による入院患者		1		2	4	7	134	113	104	157	332	840		

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

※1 急性呼吸器感染症は2025年第15週（4/7～）より開始しました。（参考：<https://www.pref.toyama.jp/1279/kansen/topics/ari/>）

※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、2025年第36週（9/1～）の集計です。

インフルエンザ情報（富山県の型別患者報告状況）

このデータは、定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。

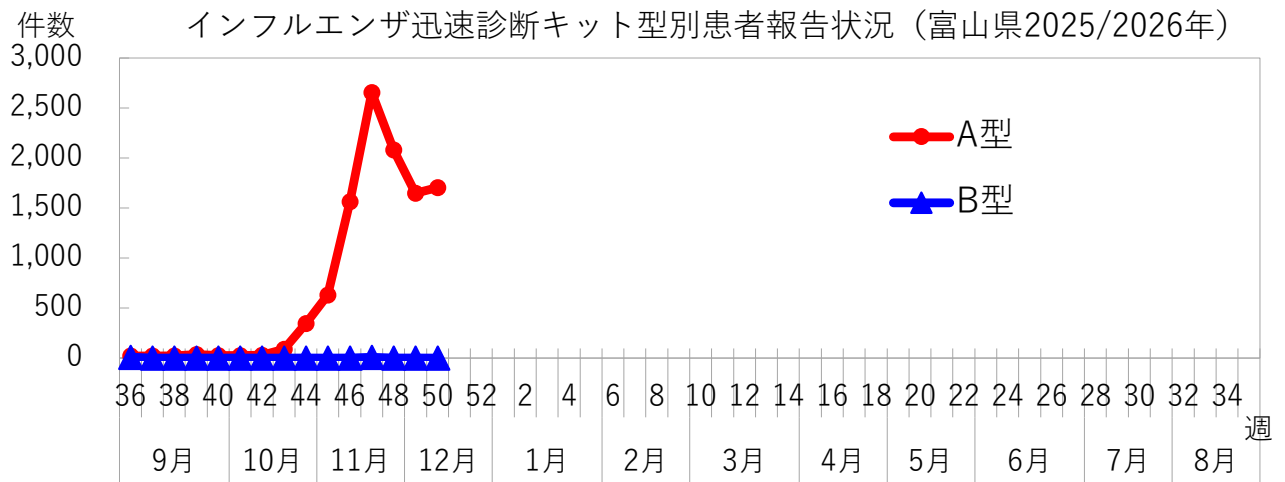
現在、下の表によると、A型が93.3%となっています。

第50週（12/8～12/14）：富山県 38.85人/定点（単位：件）

厚生センター・ 保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他※2	合計
		A型	B型		
新川	7 / 7	184	0	9	193
中部	5 / 5	234	0	13	247
高岡	13 / 13	352	0	36	388
砺波	7 / 7	236	0	2	238
富山市	15 / 15	698	0	62	760
富山県	47 / 47※1	1,704	0	122	1,826
富山県累計（2025年36週～）		10,904	27	944	11,875

※1 47の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が47か所あったことを示します。

※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。

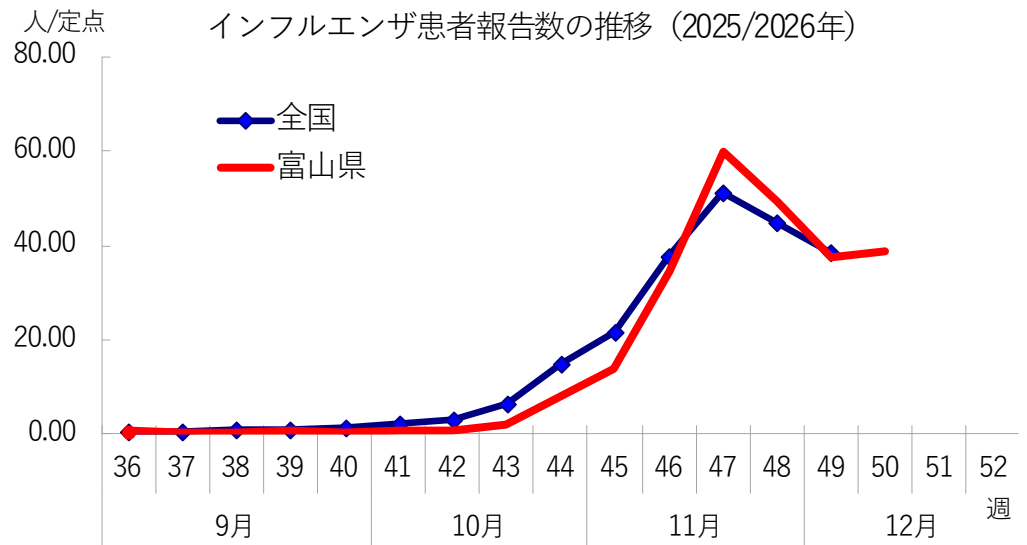


インフルエンザ情報（全国、富山県の患者報告状況）

● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況 第 50 週（12/8～12/14）

富山県 38.85 人/定点 [新川 (27.57)、中部 (49.40)、高岡 (29.85)、砺波 (34.00)、富山市 (50.67)]

今週の県内の患者報告数は、38.85 人/定点となり、先週（37.73 人/定点）よりやや増加しました。

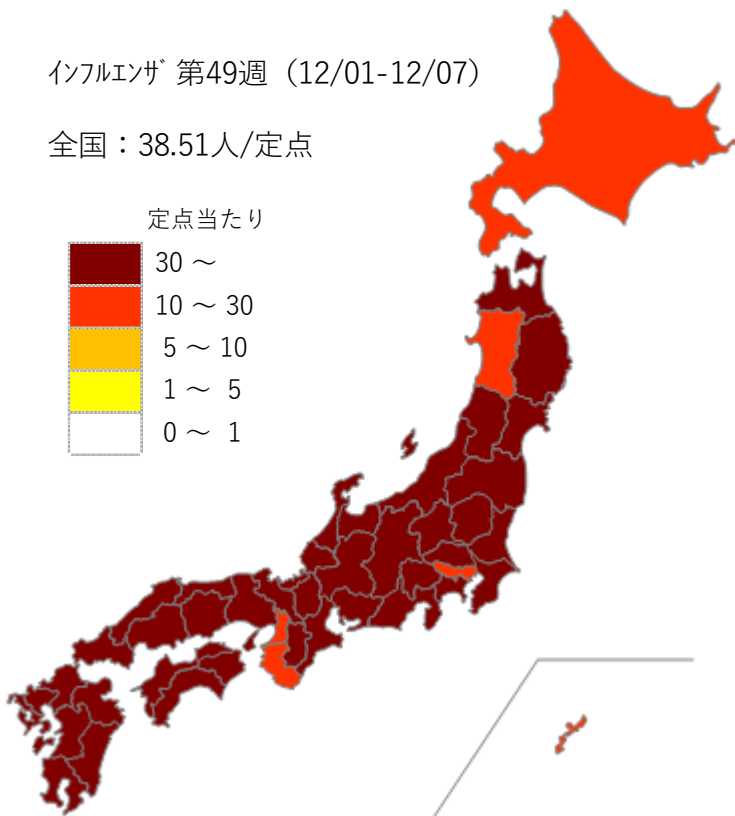
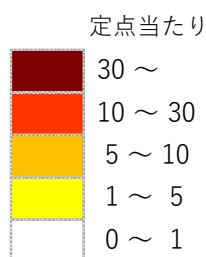


● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第 49 週（12/1～12/7）

全国患者報告数は、定点医療機関あたり 38.51 人となり、前週の 45.00 人より減少しました。15 県で前週より増加しています。32 都道府県で前週より減少しています。

インフルエンザ 第49週（12/01-12/07）

全国：38.51人/定点



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	29.08 ↓	滋賀県	38.10 ↓
青森県	35.25 ↓	京都府	46.55 ↓
岩手県	38.24 ↓	大阪府	27.08 ↓
宮城県	30.27 ↓	兵庫県	37.47 ↓
秋田県	20.68 ↓	奈良県	39.48 ↓
山形県	40.79 ↓	和歌山県	24.62 ↓
福島県	32.02 ↓	鳥取県	33.48 ↑
茨城県	38.36 ↓	島根県	38.80 ↑
栃木県	42.81 ↓	岡山県	45.92 ↓
群馬県	34.44 ↓	広島県	35.50 ↑
埼玉県	50.82 ↓	山口県	48.08 ↑
千葉県	37.08 ↓	徳島県	33.55 ↑
東京都	25.17 ↓	香川県	40.53 ↑
神奈川県	34.33 ↓	愛媛県	46.35 ↑
新潟県	47.09 ↓	高知県	33.08 ↑
富山県	37.73 ↓	福岡県	65.56 ↑
石川県	40.91 ↓	佐賀県	36.63 ↑
福井県	40.33 ↓	長崎県	48.73 ↑
山梨県	40.89 ↑	熊本県	48.17 ↑
長野県	57.04 ↓	大分県	52.91 ↓
岐阜県	38.98 ↓	宮崎県	62.54 ↑
静岡県	39.29 ↓	鹿児島県	48.12 ↑
愛知県	53.37 ↓	沖縄県	18.07 ↓
三重県	41.87 ↓	全国	38.51 ↓



○感染症発生動向調査報告状況（2025年11月分）

五類感染症 定点把握 月報対象疾患 (上段…報告数、下段…定点医療機関当たりの報告数)		11月報告分						累積報告数					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
STD定点 (10定点)	性器クラミジア感染症			1		5	6	3	1	22		67	93
				0.33		1.25	0.60						
	性器ヘルペスウイルス感染症		2			3	5		13	5		50	68
			2.00			0.75	0.50						
	尖圭コンジローマ								2	2	5	16	25
	淋菌感染症							1		3		11	15
基幹定点 (5定点)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		1	3		4	8	13	12	31	16	46	118
			1.00	3.00		4.00	1.60						
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症							1				1	2

本月報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。